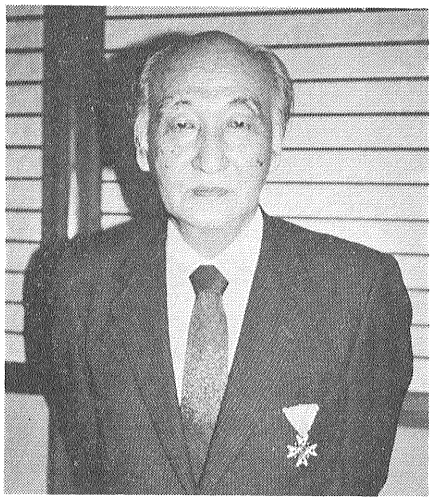
小松彊氏勲五等に叙せられる

加藤　　完（環境地質部）
Kan KATOH

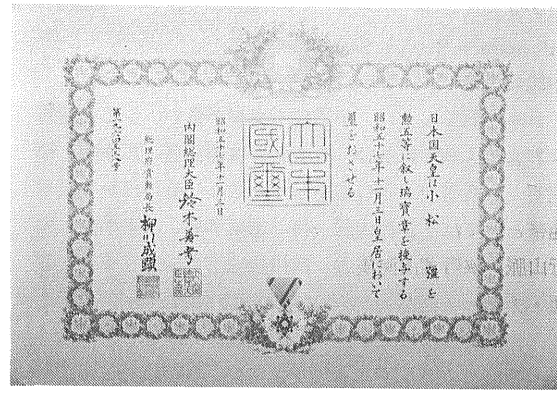


元技術部試錐課長小松彊氏は　昭和57年秋の叙勲にさいして　勲五等瑞宝章を授与され　11月10日に勲章伝達式が行われました．　心から御祝い申し上げます．

氏は　昭和７年九州帝国大学工学部採鉱学科を卒業され　朝鮮総督府燃料選鉱研究所に入所　昭和８年１月現役兵として入営　同年10月まで軍務につかれました．同年12月同所を退所　東拓鉱業株式会社に入社　石炭開発に従事されました．　昭和９年12月に同社を退社　朝鮮中央鉱業株式会社に入所　朝鮮各地の金鉱床の開発に活躍されました．

昭和17年８月に同社を退社　満州鉱業開発株式会社に入社　鉱山の開発指導に当られました．　昭和19年４月に同社を退社　大産鉱業株式会社大山嶺鉱業所に所長として勤務し　タングスン鉱床の開発にたずさわれましたが　昭和21年９月終戦により　日本内地に戻られました．

昭和21年11月商工省地下資源調査所に嘱託として入所され　石炭部調査員として　当時　国の重要な施策の一つである石炭資源の調査に従事されました．　昭和24年９月石炭課採鉱調査室長に任ぜられ　石炭鉱業の開発業務を担当し　石炭鉱業の発展に貢献されました．　昭和


日本国天皇は小松彊を
勲五等に叙し瑞宝章を授与する
昭和五十七年十一月三日皇居において
親しくこれを授ける
昭和五十七年十一月三日
内閣総理大臣　鈴木善幸
総理府賞勲局長　柳川成雄
第六二五号

26年９月地質調査所広島駐在官に任ぜられ　同時に大阪支所も兼務され　中国地方の中小鉱山の開発指導及び育成に従事すると共に　地質情報の収集に努められ　中国地方の地質調査に大いに貢献しました．　昭和30年６月技術部試錐課長に任ぜられるや　豊富な学識と経験を生かして試錐業務を推進すると共に　後進に対しては試錐技術の研究を指導し　さらにそれらの研究成果と豊富な試錐資料を集大成して　試錐ハンドブック・図解ボーリング便覧を編集・出版しました．

昭和30年代は　わが国の鉱業での試錐探鉱が活発化し　海外からの試錐技術の導入もあり　それまでの試錐が根本的に見直される時代でもありました．　氏は国立研究機関の立場から　試錐業会・鉱業会の各種研究委員会に積極的に参加し　研究及び指導に当られ　試錐技術の基盤の確立　今日の高度な試錐技術の発展に大きな巧績を残されました．

昭和42年12月退官後は　ドリコ株式会社の水熱資源相談室において　主に地熱掘削部門に従事すると共に　日本地熱調査会の抗井委員会及びサンシャイン計画の高温地層掘削技術研究委員会などに参加し　地熱井掘削技術の研究開発に多大の貢献をしつつ現在に至っています．

また　昭和43年から３年間　科学技術庁管掌の技術士試験委員も担当し　豊富な知識と経験を生かして公正な試験運営に当られました．

ここに今後の御健闘と御健康を心からお祈り申し上げる次第です．